

科目名	言語学特殊研究	担当者	オオカワ 大川 ヒデアキ 英明	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	--------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>ゲシュタルト的な知覚、視点の投影・移動、カテゴリー化などの人間が持つ一般的な認知能力の反映として言語を捉えることによって、人間と言語の本質を探究する認知言語学についてその考え方を理解し、同時にこの枠組みによる言語分析の方法を学ぶことを目的とする。また、日常言語の意味と概念体系は知覚、空間認知、運動感覚、体感、等の身体的な経験と心的イメージをはじめとする人間の想像力に根ざしているという言語観を背景とする認知意味論を枠組みとして、言葉の創造性に係わる意味の諸相に関する分析と記述について理解することと分析能力を養うことを目的とする。</p>		
到達目標	<p>教材を通して認知言語学の中核的な概念である「カテゴリー化」「メタファー」「イメージスキーマ」等についての考え方の理解を深めると同時に、分析の仕方を養うことを目標とする。更に、認知意味論の視点から意味の世界の探求方法を理解し、これらの分野における言語観察、分析、議論ができるようになることを目標とする。</p>		
学修方法	<p>①教材の内容を十分理解し、認知言語学、認知意味論の考え方を把握する。 ②レポートは理解から分析へと移行していくので、最終レポートを目指して、理解、考察、分析、まとめる能力を磨いていくことを期待する。 ③認知言語理論に基づく論文は数多く公開されているので、教材以外にもこの領域の論文を読むように努める。</p>		
スケジュール	<p>【前期】 レポート課題1 締切： 6月15日 レポート課題2 締切： 8月31日</p> <p>【後期】 レポート課題1 締切： 11月15日 レポート課題2 締切： 学事暦記載の課題提出締切日</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	1) 教材の理解度 2) レポートの構成 3) 論理的展開 4) 分析力 5) 学術論文としての体裁が整っているか
	平常評価	20%	1) 課題への取り組み 2) 学習姿勢 3) 質疑応答の内容
履修者への要望	<p>①博士前期課程において言語学の講座の履修経験があるか、または、前期のレポート課題1の提出時までにはそのレベルの知識を獲得していることを前提とする。 ②履修を考慮中の段階でも、レポートの書式などの情報を送るので、できるだけ早く担当教員に連絡をする。 ③レポート作成の作業に入る前に、選択する論文について確信がない場合には、教員に相談すること。 ④日常生活で接する様々な言語現象に注意を払い、言語分析しようとする態度を養うことを期待する。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 大堀 寿夫 教材名： 『認知言語学』（東京大学出版会，2002年）ISBN:978-4-13-082008-0 3,000円+税
	本教材では、認知言語学の枠組み内で「カテゴリー化」「メタファー」「構文知識」といった認知言語学の主要な概念を体系的に説明し、さらにこの分野を文化人類学、発達心理学のような隣接領域との関わりからも展望することによりこころの働きを理解しようとしている。
参考図書	榎山洋介『日本語研究のための認知言語学』（研究社，2014年） ISBN: 978-4327384685 2,000円+税 辻幸夫『新編 認知言語学キーワード事典』（研究社，2013年） ISBN: 978-4767434766 4,300円+税
履修上のポイント	認知言語学の考え方、分析対象の範囲、分析方法を理解する。特に「カテゴリー化」「メタファー」「構造知識」「文法化」等についての理解を深める。
レポート課題 1	教材の第1章から第6章までの範囲で扱われている内容に関連する研究論文の一つを選び、その主張の要点を紹介しつつ、批判や反論を提示し、さらに改善案を説明しなさい。(3,000～4,000字) 留意点 ：選択した論文が許容範囲かどうかかわからない場合には、必ず事前に相談すること。扱う論文がインターネットで公開されていない場合には、PDF化してレポートとともに提出すること。選択した論文の主張の要点は必ず自分の解釈、自分の言葉で紹介すること。
レポート課題 2	教材の第7章から第12章までの範囲で扱われている内容に関連する研究論文の一つを選び、その主張の要点を紹介しつつ、自らの批判や反論を提示し、さらに改善案を説明しなさい。(3,000～4,000字) 留意点 ：選択した論文が許容範囲かどうかかわからない場合には、必ず事前に相談すること。扱う論文がインターネットで公開されていない場合には、PDF化してレポートとともに提出すること。選択した論文の主張の要点は必ず自分の解釈、自分の言葉で紹介すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 山梨 正明 教材名： 『認知意味論研究』（研究社，2012）ISBN：978-4-32-740162-7 2,800円+税
	本教材は認知意味論の視点から日常言語の意味の世界の分析を試みている。特に、日常言語の意味発生のメカニズムと概念体系の諸相を、「イメージ形成」、「イメージ操作」、「メタファー写像」、「ゲシュタルト変換」、等の人間の創造的な認知能力との関連で考察している。
参考図書	『新編 認知言語学キーワード事典』（研究社，2013）ISBN: 978-4767434766 4,300円+税
履修上のポイント	認知言語学の基本的な研究成果を理解した上で、「イメージ能力と概念体系の創造性」「日常言語の意味の発現と概念体系」「身体的レトリックと言葉の創造性」「日常言語におけるレトリックの複合性」等を中心に認知意味論的アプローチの理解を深める。
レポート課題 1	教材の第1章から第3章までの範囲で扱われている内容に関連する研究論文の一つを選び、その主張の要点を紹介しつつ、自らの批判や反論を提示し、さらに改善案を説明しなさい。(3,000～4,000字) 留意点 ：選択した論文が許容範囲かどうかかわからない場合には、必ず事前に相談すること。扱う論文がインターネットで公開されていない場合には、PDF化してレポートとともに提出すること。選択した論文の主張の要点は必ず自分の解釈、自分の言葉で紹介すること。
レポート課題 2	教材の第4章から第6章までの範囲で扱われている内容に関連する研究論文の一つを選び、その主張の要点を紹介しつつ、自らの批判や反論を提示し、さらに改善案を説明しなさい。(3,000～4,000字) 留意点 ： 選択した論文が許容範囲かどうかかわからない場合には、必ず事前に相談すること。扱う論文がインターネットで公開されていない場合には、PDF化してレポートとともに提出すること。選択した論文の主張の要点は必ず自分の解釈、自分の言葉で紹介すること。